

次期SIPの制度設計等に係る有識者検討会議 (抜粋資料)

令和4年12月15日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

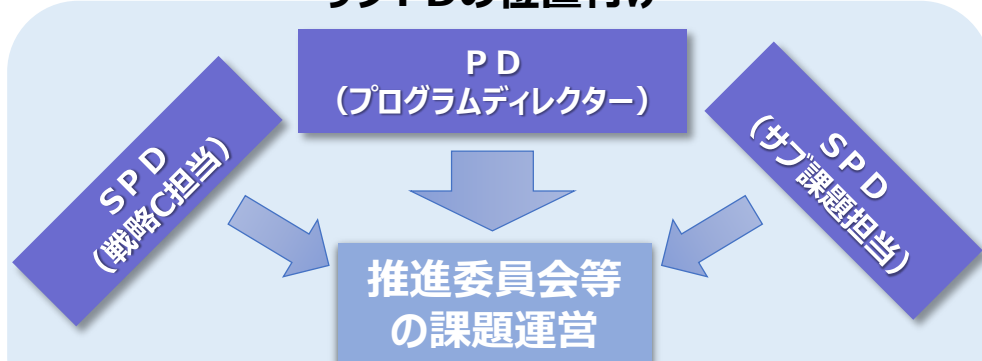


3. 制度設計の方向性

②サブPD、PD補佐の位置付け

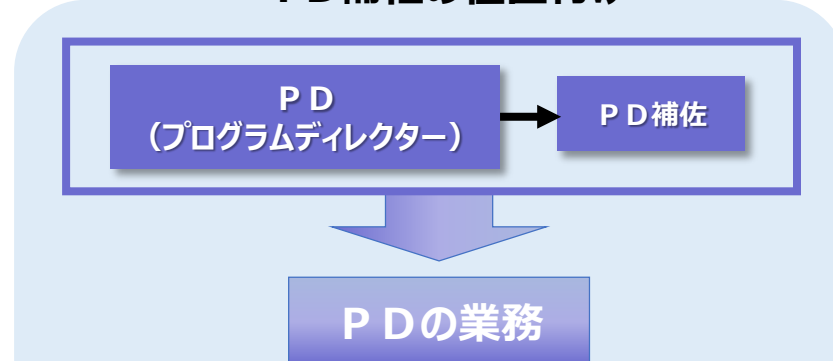
- 従来の運用指針では、PDが指名し、PDを補佐するものとして、サブPDおよびイノベーション戦略コーディネーター（戦略C）の役職が置かれていた。
- これまでの運用上、サブPDは、課題を構成するサブ課題を分担する場合、PDを補完する観点（産業界とアカデミアなど）から課題全体の運営を担う場合など、様々な役割を担っていた。戦略Cについても、事業化に向けた観点や、政策的な観点など、様々な機能として活用されていた。
- そのため、**次期SIPでは、サブPDと戦略Cの役職を分けて設置するのではなく、「サブPD」として統一して、サブPDの担務としてサブ課題担当、戦略C担当などを置くこととする。**
- また、サブPDや戦略CはPDとともに推進委員会やその下部会合に構成員として参加し、議決権を有していた。PDが利益相反がある案件についての議決についてはPD以外の構成員が担うことになるが、PDが指名し、PDを補佐するものであれば、利益相反に係る疑念が生じかねない。
- そのため、**次期SIPのサブPDは、課題運営にあたってPDを多方面から補完する業務を担うこととする。PDの推薦等により、ガバニングボードが決定し、内閣府が委嘱するものとし、推進委員会等で議決権を有することとする。**
- 一方、これまでの運用上、PDの業務を実質的にPDの所属する組織の者が補佐するケースが見られた。このようなケースについて、当該組織の負担が生じるとともに、情報管理などの観点から疑念もある。
- このため、**次期SIPでは、PDからの指示を受けてPDを補佐するものとして「PD補佐」を設置する。PD補佐はPDが決定し、内閣府が委嘱又は指名するものとし、推進委員会等では議決権を持たないものとする。**

サブPDの位置付け



サブPDは課題運営にあたってPDを多方向から補完

PD補佐の位置付け



PD補佐はPDの業務を補佐

3. 制度設計の方向性

⑤プログラム統括チームの設置

- ガバニングボードの業務を補佐するため、平成30年度より、プログラム統括 1 名が置かれている。
- また、課題の評価にあたっては、プログラム統括を座長とする課題評価WGが設置されている。
- 課題評価WGとピアレビューのプロセスの重複が指摘されているところ、次期SIPの実施にあたっては、課題評価WGとピアレビューとを整理統合し、ピアレビューの仕組みを生かし、専門的な評価を行いつつ、横断的な視点も含む評価が行える体制に改めることとする。
- このため、課題評価WGを設置するのではなく、**横断的な視点を有するプログラム統括、プログラム統括補佐（運用指針には規定済）、プログラム統括委員（新設）数名で構成される「プログラム統括チーム」を設置し、ピアレビューと連携して評価を実施することとする。**
- また、プログラム統括チームは、**評価のほか、制度設計などプログラム全体の方針検討、進捗管理、課題間の連携促進等を担うこととし、PDとの個別の対話や、PD間での意見交換（PD会議）を実施するものとする。**
- プログラム統括チームは、**社会実装、ビジネス、知財、データ、国際標準、制度・ルール等に関する専門的な知識を有するメンバーでの構成を想定。**
- プログラム統括補佐、プログラム統括委員はSIP運用指針に基づき内閣府により雇用、委嘱する。

総合科学技術・イノベーション会議

ガバニングボード（CSTI有識者議員）

プログラム統括チーム（プログラム統括、プログラム統括補佐、プログラム統括委員で構成）

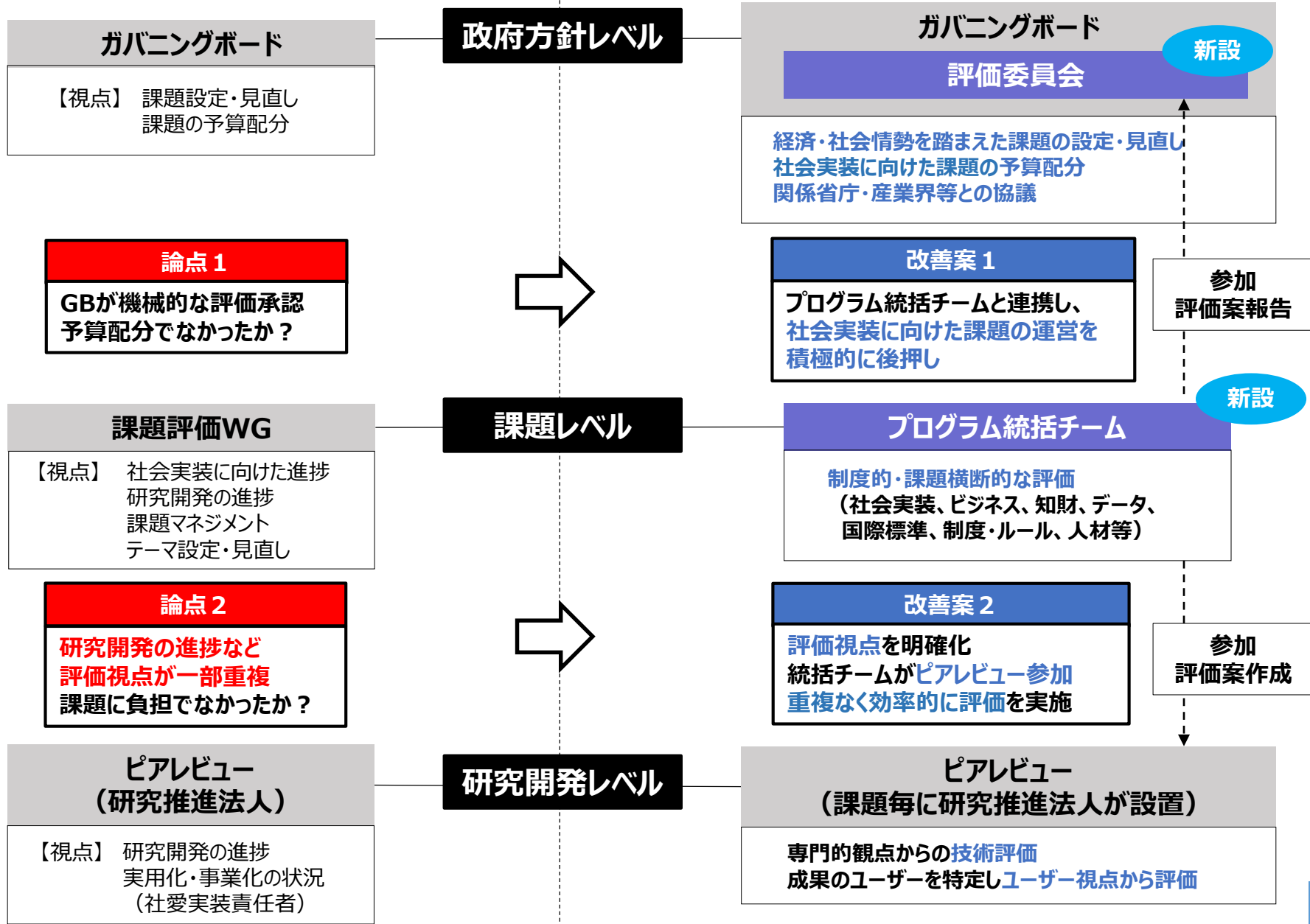
PD（プログラムディレクター）

- ピアレビューと連携して、横断的観点から課題の評価を実施。
- 評価のほか、制度設計などプログラム全体の方針検討、進捗管理、課題間の連携促進等を実施。
- 社会実装、ビジネス、知財、データ、国際標準、制度・ルール等に関する専門的な知識を有するメンバーでの構成を想定。

SIPの評価体制に係る論点と次期SIPでの改定案

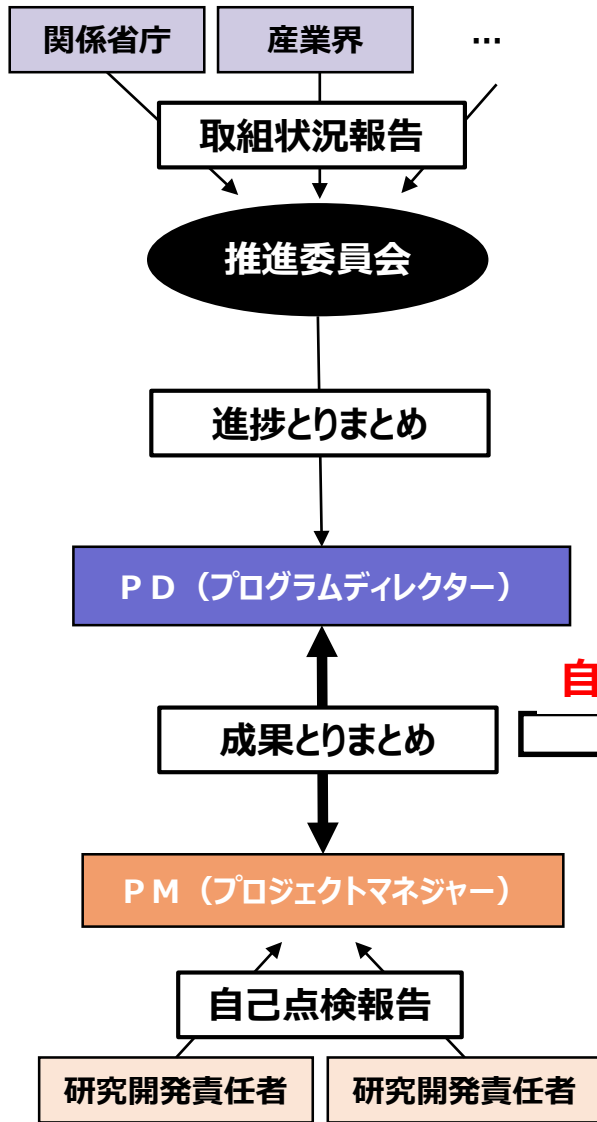
<従来>

<改定案>

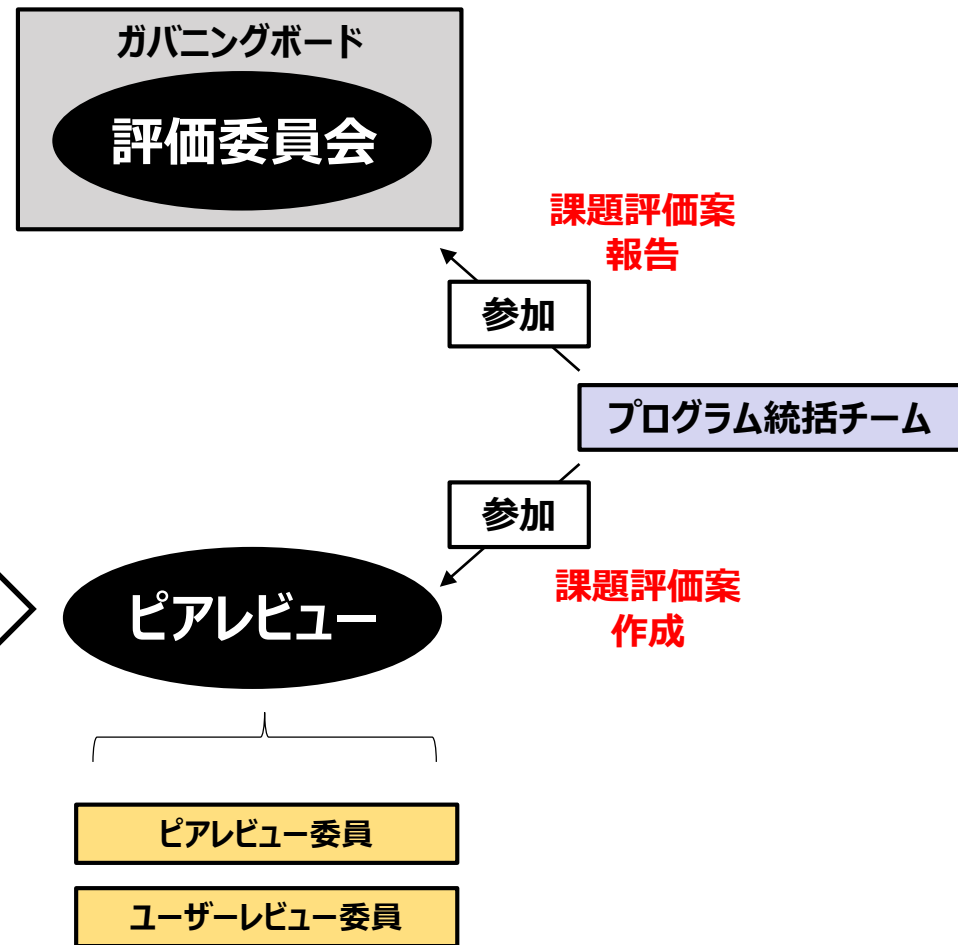


次期SIPの課題評価の流れについて（イメージ図）

<実施・推進>



<評価・推進>



自己点検報告書

課題評価案
報告

参加

プログラム統括チーム

参加

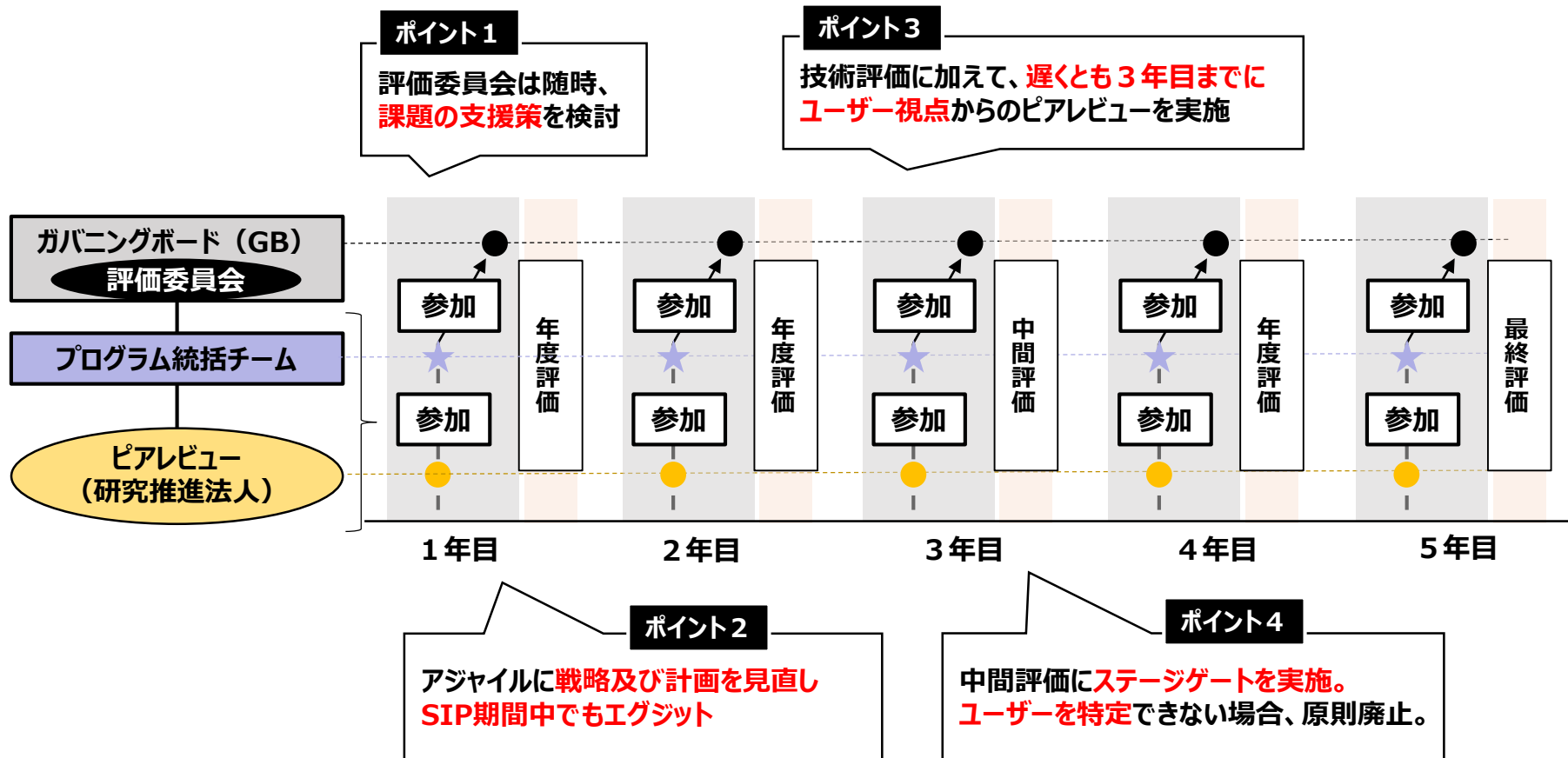
課題評価案
作成

ピアレビュー

ピアレビュー委員

ユーザーレビュー委員

次期SIP 5年間における評価フロー（想定）

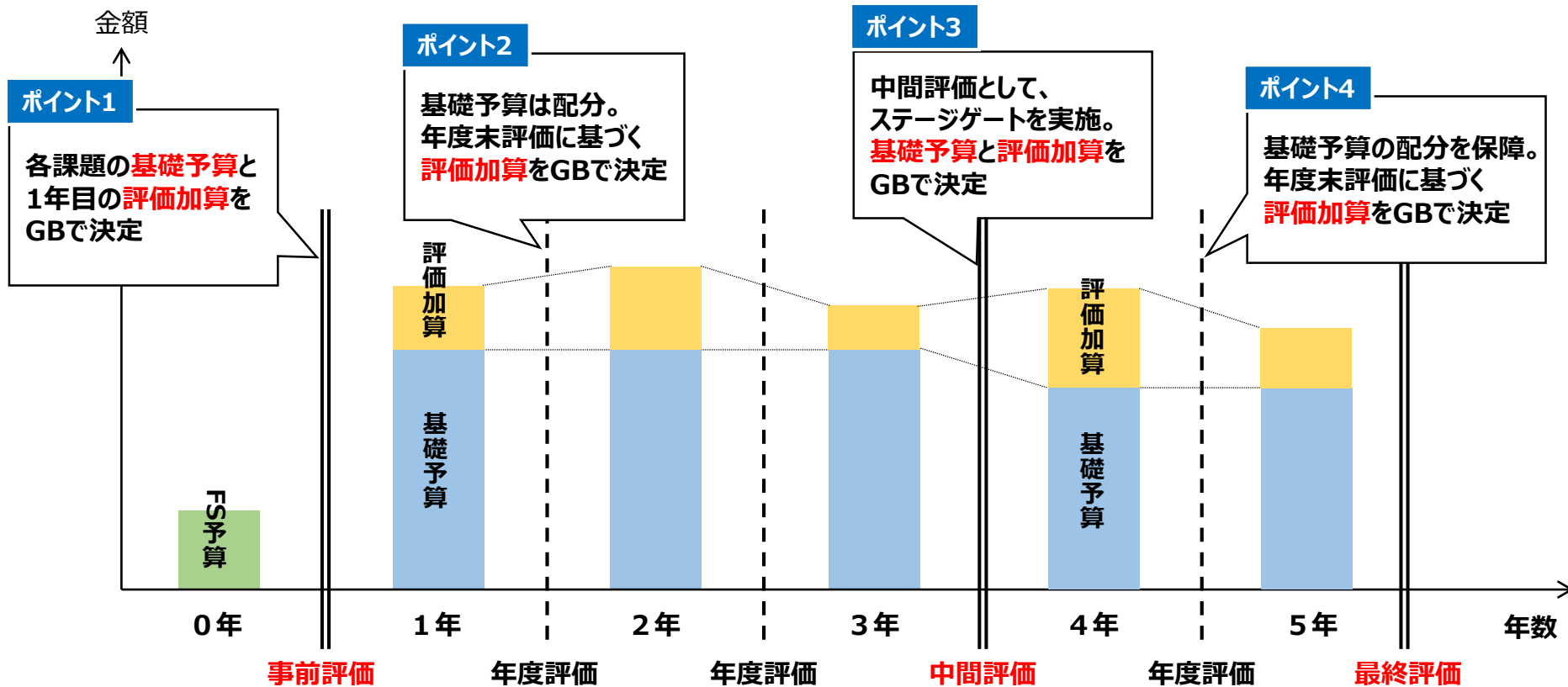


次期SIPにおける予算配分のイメージ

課題を安定的に推進するための“**基礎予算**”、評価に基づき課題推進を加速する“**評価加算**”を位置付け、**(予算配分額) = (基礎予算) + (評価加算)**とする。

基礎予算は原則、事前評価で決定し、中間評価まで同額を配分し、中間評価でステージゲートを実施し、見直しを行う。
 評価加算は原則、前年度の成果や当該年度の事業計画の評価に基づき、毎年度配分するものとする。

※各財源として、課題に配分する全体予算（SIP予算から事務局経費等を差し引いたもの）の概ね8割を基礎予算、おおむね2割を評価加算とする。
 ※事前評価での予算配分は見込み額での配分であり、1年目の契約・執行状況等によっては基礎予算を精査する可能性あり。



基礎予算（課題を安定的に推進するための予算）

評価加算（評価に基づき課題推進を加速するための予算）